

パネルディスカッション

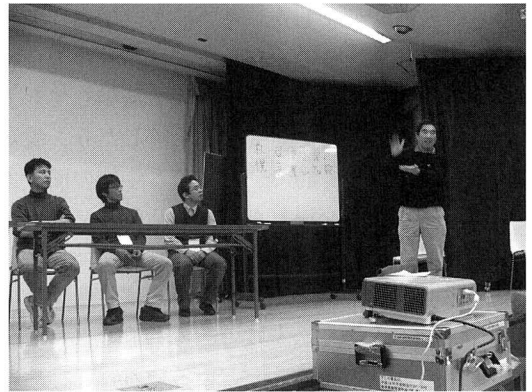
「聾史研究団体の設立のきっかけと今後の展望」

司 会	西滝憲彦(日本聾史学会副会長)
パネラー	中根伸一(札幌聾史研究会)
	石川俊哉(岩手聾史研究会)
	内田博幸(信濃聾史研究クラブ)
	橋 勇一(富山聾史研究グループ)
	青山直幹(愛知聾史倶楽部)
	新谷嘉浩(近畿聾史研究グループ)
記 録	桜井 強(日本聾史学会事務局長)

(司会) 昨日から勉強を続けていますが、最後はパネルディスカッションです。ディスカッションの内容は全国各地に聾史研究会があります。その代表に集まっていたいただき、地域の活動やいろいろな課題を話していただきます。司会は大阪の西滝といいます。よろしくお祈いします。まず、一人ずつ簡単に自己紹介していただきたいと思います。(北海道) 私は北海道に札幌聾史研究会という団体があり、その団体の会長の中根と申します。(岩手) 岩手県聾史研究会代表の石川と申します。よろしくお祈いします。(信濃：長野県) みなさん、こんにちは。私の名前は内田博幸と申します。信濃(しなの)聾史研究クラブ代表です。(富山) 長野県から山を越えて隣の富山にある富山聾史研究グループ会長の橋(タチバナ)と申します。みなさんよろしくお祈いします。(愛知) 私は愛知聾史倶楽部代表の青山です。よろしくお祈いします。(近畿) 私は近畿聾史研究グループ代表の新谷と申します。よろしくお祈いします。(司会) 次に一人ずつ出来れば三分くらいで、なぜ地域に研究会を作ったのか？そのきっかけと経緯を短く答えていただきます。(北海道) 札幌聾史研究会を立ち上げる前、今から17～18年前に正式名称として、札幌ろうあ問題研究ゼミという団体を聴者、聾者と共に、ろうあ問題を研究するために、立ち上げました。いろいろと研究しましたが、団体はその後自然に消滅しました。ずっと後になって、京都の友人の新谷さんから日本聾史学会が設立されたことを聞き、

誘っていただき、初めて参加しました。大勢の若い人達が勉強しており、仲間がそんなにいることを知って嬉しくなりました。「中根さんも団体を復活させたらどうか？」と言われて、地元でみんなに声をかけて、再び立ち上げました。聾史研究としては古い(長い)ですが、団体は5年くらいなのでまだ日は浅いです。

(司会) 中根さんは本当に経験が長い人です。とても長く研究活動を続けられており、特に函館の篠崎先生の調査量はすごいです。読ませていただきましたが、とても驚きました。団体設立としては短いですが、中根氏個人はとても長い歴史研究者です。次、どうぞ。



(岩手) 研究会を立ち上げたきっかけは3年前の日本聾史学会松本大会の時、小岩井是非雄氏がテーマの講演の中で、岩手大学の話を聞きました。地元に戻り仲間と、もしかしたら掛け軸が大学(岩手大学)に保存されているかも…と話をしたのち、しばらくして大学にある事を聞き、そこでもし、岩手大学に行く時に団体名がないままだとそぐわないため、みんなで話し合った結果、岩手聾史研究会と団体名を決めました。この時は団体名のみ決め、会則は後日決める事にしました。そして、大学へ行き団体として挨拶をし、掛け軸などいろいろ調査をさせていただきました。その後、正式に会則を作り、団体を立ち上げました。(司会) きっかけは小岩井先生の調査をした事からスタートしたのですね。ここ長岡の親戚、みなさんの親戚関係にもなると思いますが(笑)。次、どうぞ。

(信濃) 信濃に立ち上げたきっかけは平成13年(今から3年前)です。初めはメンバーが7人集まり団体名をどうするか考え、「長野県」「信州(しん



しゅう)」「信濃(しのの)」の3つの候補が上がりました。「信濃」といえば、昔、長野は「信濃国」と呼ばれていました。そこから「信濃」の名を取り、団体名を作りました。メンバーは都合のつかない人が多く、ほとんど3人で活動してきました。最近は岩手聾史研究会と交流したり、愛知聾史倶楽部と歴史探訪で『松本ろう学校の旧校舍跡の碑』へ案内し交流したりなど活動してきました。長野県の面白い事といえば、「耳」や「つんぼ」に関するものを集めています。例えば、飯田市にある「つんぼ平」や、松本城のある「耳・聾(ろう)」や、上田の「耳の神様」などいろいろ行き、活動してきました。

(司会) 長野を中心に松本ろう学校には古い歴史がありますし、「みみ」のことばなど珍しいナゾが多いです。研究熱心ですね。分かりました。次は富山です。

(富山) 先に話された方たちと内容は近いのですが、実は富山聾史研究グループを立ち上げる5～7年程前に富山手話研究会がありました。その活動内容には・古い手話を集め調べる事・聾者の歴史を調べる事があり、この2つが、曖昧(あいまい)になっていました。その内訳はほとんど手話が占めており、聾史が少ない状況でしたが、聾史の中には「松村精一郎」というとても重要な史料もあったため、分けた方が良いのでは?ということがきっかけで、新しくグループが誕生しました。2002年4月に富山聾史研究グループを立ち上げ、団体が2つになりましたが、今では富山手話研究会は勢いがなくなり、聾史研究グループの方が盛り上がってる状況です。会員は7人です。実際の活動も6、7人の状況です。今の活動内容は

4つあります。この間話し合った結果、聾史の調査の為、一軒一軒家に行き、掘り起こし、調べる事・高齢ろう者に会い、昔の富山での空襲や戦争の話などをしてもらいビデオ撮影をする事・日本聾史学会の支援をすること・活動する事と決めてあります。

(司会) 手話の研究と「松村精一郎」のような偉大な方の研究の2つがあり、でも意外だったのは、きっかけは手話の勉強からスタートだったのですね。他のところと少し違いますね。今後が楽しみです。では、次、どうぞ。

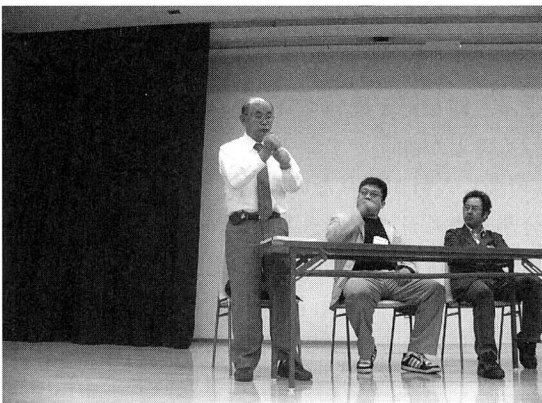
(愛知) 愛知の場合、この学会は今回で第8回ですよね。以前、第3回の時、私が担当でその時は倶楽部はまだありませんでした。愛知の各地から実行委員を募り活動し、大会は成功しました。そして打ち上げ会の時、1泊で温泉に入ったり、みんなで飲みながら、「このまま解散してはもったいないから、何か団体を立ち上げたら良いのでは?」という意見が出たため、そこから立ち上げる事を決意しました。

(司会) 第3回の実行委員会を解散させてはもったいないという事で継続して研究を続けたいからです。第3回といえば吉川先生の色々な発表でした。とても調査されていたと思います。お疲れ様でした。次、どうぞ。

(近畿) 近畿の場合、設立のきっかけはあちらにいる芳本さんです。私が聾史研究を1人でやってきて行き詰まっていた時に芳本さんに出会い、話をしていたら考え方が一致しました。そこで、どうしたら良いか?など話し合い、やはり一人では限界があるから、これから仲間を何人が集めたら良いのでは?大阪だけでなく、兵庫や京都などからも仲間を集めて増やした方が良いのではないかとということで、話が一致した事から立ち上げたのがきっかけです。メンバーは15人です。ほとんど大阪、京都、兵庫、滋賀の人です。

(司会) このグループは近畿各地と広く、研究課題がいろいろあり、目的もたくさんあるようです。今までそれぞれのきっかけを話していただきました。次に今の現状を知りたいのですが、地域のろう協会とのつながりはどうかということ。ろう学校との関わりがあるか?ないか?この2つをまとめて話しをお願いします。

(北海道) 札幌聾史研究会を立ち上げた時は、その前のろうあ問題研究ゼミと同じく、地元、札幌の協会組織の中に文化活動の1つとして加入していました。1年間に活動したことを報告して、助成金がもらえます。それで立ち上げた時から、ろう協会とはつながりを持っていました。常にろう運動の組織や団体とはつながりを持つ事を基本にしています。活動内容については、指導されるようなことは1つありません。自由です。2つ目は毎月発行している協会の新聞にコラムを掲載しています。会員みんなで毎月交代で持ち回りにし、「聾史寸話」という短い話を載せています。聾史のいろいろなことを載せ、リレー形式で続けており、今は50話になります。3つ目はほとんどの県でろうあ者大会が1年に1回開かれていると思います。北海道でも同じで1年に1回行われています。大会には分科会やゼミ講座があります。新たに聾史部門を設けて欲しいと要望して、設けていただきました。札幌聾史研究会が担当しています。1年に1回行われますので、その地の史料を調べて講義します。とても楽しく大盛況でした。このような歴史の知識を深め、広める努力を今後も続けて行きたいと思います。ろう学校との関わりはほとんどありません。あるといえば、聾史研究会が1年に1回ぐらい「北海道聾史研究」の本を発行しています。みなさんも見たことがあると思いますが、600円でこれぐらいの薄い本です。これを各ろう学校に、何部か郵送したり、学校へ行行って「先生方に読んでいただきたい」と20部ほど渡したりするぐらいの関わりです。



(司会) 新聞コラムが“50”続いているというのは50人という意味ですか？ 50話ということですね。何人で作っていますか？ 6人～7人ですか？

そのコラムは原稿料をもらって活動資金にしていますか？それはいいですね。分かりました。ありがとうございます。次、同じく協会やろう学校の関わりについてお願いします。

(岩手) ろう協会との関わりは強いとは言えません。協力し合うくらいです。歴史研究会を立ち上げる時に誤解されないよう、ろう協会の理事に報告し、協議していただいた結果、すべて理解して許可していただきました。その後は資料や写真などろう協会にもたくさん保存してありますので、それを貸していただき、調査するなど協力し合っています。ろう学校との関わりは、私たちの研究会があることを知ってもらっていただくくらいで強い関わりはありません。資料が必要な時は学校へ伺い、調べることはあります。昨年、盛岡ろう学校で小岩井展を行いました。生徒や先生の視野を広めるために行いました。今年は一関ろう学校の文化祭でも行いました。

(司会) 岩手は積極的に関わりを作って活動されていますね。

(信濃) 長野ろう協会の場合は、今は車の免許を持っていることで遊びに行く人が多く、役員会議の出席率は半分くらいです。昔は車の免許を持っていない為、電車で集まることができ、出席率が高かったと聞いています。小岩井氏は昔、日本ろうあ協会長野支部長を務め、協会の顧問としても活動されていたと聞いています。最近は組織の中で考え方が半分に分かれている状況です。また、新聞やコラム、ろうマンガなどを掲載する活動をしてきました。

(司会) ありがとうございます。次、富山の方どうぞ。

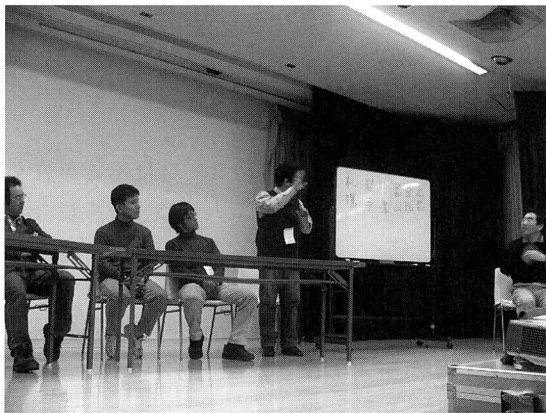
(富山) まず、協会との関わりはまだ薄いです。協会の組織とは別になっています。しかし、協会としては歴史活動に関心を持っています。協会の新聞の中に「歴史たより」を毎月1回載せて欲しいと依頼がありましたが、今はメンバーと相談するというで待ってもらっている状況です。この歴史活動にも理解していただいていますので、問題はないと思います。今後、パイプを太くし、関わりを強くしていく方針で行きたいです。学校の場合は、富山県にはろう学校が2校あります。1つは富山(ろう学校)と高岡(ろう学校)

です。ご存じですよ。高岡ろう学校とはまだ関わりはありませんが、富山とは富山ろう学校同窓会の中に学校の歴史活動が一部あります。また情報は団体として交流するのではなく、私が個人的に交流のあるメンバーの人と会って話す事があります。今後どのような関わりをしていくのか、メンバーと話し合ってみます。

(司会) 将来楽しみですね。次、どうぞ。

(愛知) 愛知倶楽部の主なイベントは1年に1回、講演会をやることです。そのためにPRは必要なので、ろう協会には設立当時からずっと後援をしてもらっていますので、スムーズにPRができ、大勢の方が来ていただけるよう協力していただいています。ろう学校との関わりは案内チラシを郵送するくらいです。

(司会) 近畿の方、どうぞ。



(近畿) 近畿の場合、ろう協会とのパイプが太いか細いかの判断は正直難しいと思います。なぜかという、メンバーの中にろう協会の役員が何人かいます。例えば、以前大阪大会を開催した時は話し合いの場にたまたまろう協会役員のメンバーがおり、その人をお願いしてろう協会と仲介してもらったり、京都では私が個人的に会って知っていますので、近畿グループ今発行している不定期新聞を京都ろう協会に渡すなど、少しずつ個人的なつながりを増やしている状況です。ろう学校の場合は幸いな事にグループの中にろう学校の先生が2人います。大阪市立ろう学校と京都ろう学校です。なので、大阪市立はどうか？例えば学校へ訪問して資料をもらう時や考え方など常識があるかどうかの判断や教師としての考え方などを情報交換し、いろいろ積み重ねている関係くらいです。

また、もし新聞などの発行の為に資料をいただいた場合は勝手にするのではなく、出来上がったものを差し上げるため、送ったりする関わりはあります。

(司会) 今話を聞くと昨日の伊藤政雄会長の挨拶の中で、「この会は、はなさかじいさんのように研究したものをろう協会や教育の場に蒔く(配る)のが良い！」というお話がありましたが、みなさんも同じでしたね。いろいろなところに種を蒔き、花が咲くようなきっかけ作りの活動のようですね。でも蒔いたり、花が咲くのを見るのも楽しいですが、苦しい事もたくさんあると思います。悩みや行き詰まったことをそれぞれ発表していただきたいと思います。

(北海道) 私の札幌聾史研究会には大学教授と手話サークルの聴者が2人入っています。あとはみんなろう者です。札幌聾史研究会のろう者のメンバーには肩書きを持つ人がとても多いです。協会の職員や事務局長など…。結局、時間がある私に仕事がたくさん来てしまいます。みんなとはパソコンのML(メーリングリスト)で連絡を取り合うので、情報交換は出来ませんが、本の製作などになると「忙しいから任せます。」と言われてしまうので、それが悩みの1つです。実際に活動出来る人は少ないです。調査のためにいろいろ資料をもらいに行く時に電話が出来ないのが不便です。通訳者と一緒に行かないといけないうし、謝礼も必要です。改めて奉仕で通訳していただける方が実際少ないです。また、通訳者がいても歴史の知識がないため、こちらの話している事が把握できないという不便な面もあります。研究調査を進展させるために、いろいろな壁があるのはろう者のみなさんも同じだと思います。その辺りを乗り越えて行くことが課題です。

(司会) 人材が足りない、忙しい、電話での壁…、分かりました。みなさんも似ていると思いますが、何かあれば順番に悩みなど話して下さい。

(岩手) 困っている事といえば、当たり前ですが、資料が足りなかつたり、無かつたりすることです。あとは、研究会の中に会員は3人います。私の場合、仕事は朝8時～PM 5時までの常勤の仕事です。他の二人は交代制の仕事です。例えば、会議をしたり研究をしたりする時に、みんなの日程を

合わせるのがとても大変です。

(司会)資料を集めるのが大変なのですね。次の方、どうぞ。

(信濃) 苦しかったことは以前、小岩井校長の銅像を建てるために活動していました。そこで、教え子の中に寄付は出来ないという子がおり、とても残念でしたが、自分が責任を持ち、みなさんに協力していただき成功できたことが思い出です。カンパを集めるのが大変ですね。

(司会)カンパが苦しい…。利益を得る事が目的ではないですね。次、どうぞ。

(富山) 今まで話された方とほぼ近いのですが、付け加えて、明治11年に京都、明治12年に大阪と東京、明治13年と3つありますが、私の明治13年の金沢設立部分が他と比べて資料の保存が極めて少なく、行き詰まり、困っています。また写真も他の2つはたくさんあるのに、金沢はとも少なく、昨日発表した2枚のみで他にはありません。それが1番の悩みです。たくさん見たいとは思いますが…。



(司会)資料収集が大変とのこと、みなさんも何かありましたら、提供をお願いします。次、どうぞ。

(愛知) 私の倶楽部は他のグループと違い、名称に研究とは付いていません。気持ちを楽にした集まりで、研究を一生懸命やるような倶楽部ではないので、悩みはあまりありません。でも個人的に悩んだことは、今はありませんが以前、倶楽部を立ち上げた時はやはり風当たりが強く、ろう協会からも白い目で見られていました。今は解決出来て安心しています。もう1つは立ち上げた当時、メンバーは全員男性でしたが、女性は1人もいない状況だったので女性がいてくれるといいな

と思っていましたら、昨年やっとな女性が2人メンバーに入りました。ホッとしています。(笑)

(司会)分かりました。次、どうぞ。

(近畿) 近畿グループの立場での悩みはやはり人材育成だと思います。例えば、聾史のことを全く知らないままグループに入る人が何人かいます。今までは簡単に会議の日程を決め、当日会議をし、終わったらまた次の会議で集まるといってこれをくり返していましたが、思いのほか伸び悩んでいる人が何人かいます。そうではなくて、例えば基本の「ろう教育史100年の歩み」の本や、「全日本ろうあ連盟50年の歩み」の本は簡単な基本です。簡単な流れが書いてありますのでそれを読んでもらうなど…。お互いの考え方を話し合うとか、時間がかかりますが、1人1人が歴史に対して見方が違いますので、例えば、「おし」、「つんぼ」の差別があるという考え方を持つ人がいれば、差別？意識した事はないなという人もいます。差別がある、ない、で話し合うのではなく、まず、資料を読んだり、調べたものを持ち寄り、みんなに配付し、これを元にして話し合いをする。これを少しずつ積み重ねていき、正直時間がかかります。これが今悩むところです。

(司会)会員が増えてくると、今言われたとおり、悩みも出てくるとは思いますが、それは活動の中で一緒に勉強や仲間を作りいくしかないですね。今後の活動で今、目の前の研究があると思います。これから研究したいことや、今あたためているテーマがあると思います。それぞれどのような研究の計画をしているのか？思っていることや夢でも構いません。どうぞ。

(北海道) 私たち札幌聾史研究会は、みんなで話し合って研究するテーマを定めると、資料の情報交換や収録を行ないます。今まで調べて研究したことは北海道聾史研究本1～6に載っています。現在、続行中の研究テーマは戦前にろうあ者の先生がいたかどうか？を調べる事です。北海道ではろう学校は8校あります。廃校した学校を含めると全部で10校あります。廃校したところを調べたりして、今まで、見つかったろうあ者の先生は15人くらいでしたが、最近に新たに見つかったのは3人です。この3人がどんな人で、いつ生まれたか？どんな教え方をしたか？を調べて

います。他に新しく研究したいテーマは、今までいろいろと資料を出版してきたので底払いしたように感じますが、テーマはこれから探します。でも、研究したものはすべて調べ終えたとは言えません。調査した中に間違いもあります。これらのチェックが必要だと思います。みなさんが買っていた1～6号の中、古いものと新しいものでは、内容が違うものが出てきた場合は、古い方が間違いになり、新しい方が正しいと判断していただければありがたいと思います。

(司会) 北海道のろうあ者の先生の追跡は残り3人がまだということですね。資料は見ましたか？お疲れ様でした。次、どうぞ。

(岩手) 今、研究を進めているものは会員3人の中でそれぞれ得意なものを各自で進めている状況です。私個人は、古代～江戸までの中で、聾者が2人でも3人でもいたら…と思い進めています。その為に漢文の基本を覚えて進めています。

(司会) 3人別々で進めているのですね。来年、発表は？まだまだ無理ですか。分かりました。次、どうぞ。



(信濃) 私の夢は以前、小岩井氏の資料を発行しました。これからは何か分かりやすい、例えば小学生向けの本で、挿し絵付きで読みやすく簡単な文章にした本を作りたいと考えています。

(司会) いつ頃を目標にしていますか？

(信濃) 2年後を目標にしています。

(司会) 期待したいです。ありがとうございます。次、富山。

(富山) 昨日の全体発表の中で今後の活動目標としてその4つを活動しています。今は、戦前の内容で研究していたものの残りがあるのでそれを再

びやるか？富山大空襲のことを取り入れるか？ろう学校の歴史を取り入れるか？まだこれから話し合っていこうと思います。

(司会) 昨日レポート発表にありました、プリントにも載っていますね。4つの目標頑張ってください。

(愛知) 今のところ、特別な計画はありません。今まで通り1年に1回の講演をやり、一般の方とともに歴史の面白さを味わってもらいたい。それだけです。

(司会) 今年の講演は？

(愛知) 長谷川氏のタコ部屋です。良かったです。

(司会) ありがとうございます。次、どうぞ。

(近畿) 近畿の場合、今後やりたい目標はなかなか実行できていませんが、本を出版することです。本当は新聞は今まで、メンバーにレポートをたくさん提出してもらっているのがあります。その中でいくつか選考し文章の編集をして、本の出版したい！という考えにみんな意見が一致していますが、延び延びになっている状況です。実は2年後にちょうど設立10周年になりますので、2年後までには出版したいなと私個人では思っていますが…。また最近では、文章を読むのが苦手な聾者もいますね。新聞を発行するだけでなく、高齢ろう者のお宅へ伺い、話をビデオで撮影をし、そのテープをDVD化をするとか、先程岩手の石川さんが話していましたが、昔の「おし」、「つんぼ」の資料を探し、ピックアップし、まず年代ごとに並べます。たまたま、最近起きたことといえば、ニセ者の聾者です。つまり偽って聾者のふりをする聴者がときどきいますね。なぜ聴者がわざわざ聾者のふりをするのか？これはつまり、元々そこに聾者がいたことになります。武士（お侍）に斬られそうになった時に「私は耳が聞こえません！」と身ぶり手ぶりでアピールし、斬られなくて済んだ！という聾者の真似を聴者がしたことから、きているのでは？と話しているところです。なので、とにかく年代事に資料を並べてみたいです。いろいろ思いや考えは、たくさんあります。話がうまく説明できなくてすみません。

(司会) 「明き盲（アキメクラ）」という言葉がありますが、「ニセ盲人」「ニセ聾者」を探すのは大変ですね。このように研究のために必要な資料や

それを見つけたすコツやテクニックなどを、どのような方法やルートで見つけていますか？みなさんの経験をお聞かせ下さい。

(北海道)それはとても大切な事だと思います。昔、ろうあ問題研究ゼミを立ち上げた時、資料を探すが、とても大変だった経験があります。今はパソコンで検索すればすぐに見つける事ができます。私は技術がまだなのでやった事はありませんが、話を聞くと簡単だから調べると良い！といわれましたが、私はやり方が分からないので…。以前の私のやり方は聴者と一緒には行かず、ろう者の私一人で図書館に行き、そこの図書司書の方と個人的に親しくなります。自分の名前や住所を伝え、調べたい内容を素直に紙に書いて伝えます。その内容を図書司書の方に渡し、頭の片隅に入れておいてもらいます。自分は調べても分からない時は帰ります。司書の仕事の中に蔵書の整理があります。その整理の時に「それは中根さんが探していたものでは？」と資料をコピーして資料がどこにあるか？などを郵送してもらい、協力して頂きました。このように図書司書の方と親しくなる方法が一番良いのです。いろいろな図書館へ行き司書の方と親しくなり、資料をたくさん集める事ができました。この話は20年ぐらい前の話です。今はわざわざ司書の方と親しくならなくてもHPで調べることができるようです。また、昔は聾史を調べたくても仲間はいません。自分が一番苦しかったことは以前、函館ろう学校の篠崎校長の歴史を調べた時のことです。あの頃は、研究している人は1人もいませんでした。ほとんどの古い資料は司書の方に集めてもらいました。一番大事な事は町の中には郷土研究者が、必ず1人、2人はいます。その町の役場へ行って、町史にとっても詳しい人を紹介していただき、そこへ一緒に行ってもらいます。やり取りは筆談です。その方は1年に何回か地元の古い歴史資料を発行しておりました。挨拶して、訪問の理由を説明すると「それなら私が作った本があります。」と資料を分けてくれたりしました。このように見えないところで研究されている方が必ず何人かいると思います。こうして協力してもらったり、つながりを持ちながらまとめることができたわけです。それは本当に余裕がないと出来ないものです。費用もだいぶか

かりました。また以前と同じ方法をやることは、今はもう若くないので無理です。今はパソコンで検索していますが、調べる方法はまだまだわからなく、未熟ですが、頑張って勉強して行きたいと思います。

(司会) 司書の方や地域の研究家の方に協力してもらったのですね。聾者でもできますね。感動しました。次、どうぞ。



(岩手) 私の資料を得る方法は自分の足で図書館、ろう学校、ろう協会へ行き、そこで資料を集めます。この集めた資料は他の会員2人にも渡して保存してもらってます。以前ある資料を無くしてしまい困った時、他の人が同じものを持っていて助かった経験があるからです。その方法でやっています。

(司会) 協会、学校、友人などから資料を集めているのですね。次、どうぞ。

(岩手) もう1つありました。高齢ろう者のお宅へ伺い、古い写真や記念誌などをもう使わないから…と頂く事もあります。

(司会) 高齢者の方は大事に持っていて…と譲っていただけるのですね。いいですね。

(信濃) 内容は岩手と同じですが、付け加えるとビデオを撮影する時は、テーマを含めたすべての撮影をする事を一番大事に考えています。

(司会) ビデオや写真代などお金がかかりますね。今日見ている講演よりもプロジェクターで映像を見る事ができていいですよ。

(富山) 富山の場合はたまたま運が良いです。富山の松村精一郎氏(初ろう学校校長)の血族がまだ生存されていますので、本人から資料より生の声を聞けるので運が良いです。生きていらっしゃる

る間にいろいろ聞きたいと思います。

(司会) 通訳はどうしていますか？

(富山) 個人でビデオに撮り、声の一致を証拠として保存しています。

(司会) 通訳の協力はありますか？同じ会員ですか？

(富山) 県の手話通訳派遣に依頼するか、都合が悪い場合は地元の手話サークルで手話がある程度できる方と一緒にいく事もあります。今年はお墓の掃除に地元のサークルの人と一緒に行きました。ボランティアですが、昼食とお茶は渡しました。

(司会) ありがとうございます。

(愛知) 倶楽部の会議は1年に3～4回で、1回の会議時間は平均2時間くらいです。その会議には情報提供タイムを20分ほど設けています。それぞれに何かあれば情報を出してもらっています。調べ方はいろいろあると思いますが、この方法でやってます。

(司会) PRのためにいろいろな方法でやっているのですね。分かりました。次、どうぞ。

(近畿) 基本は札幌と同じです。恵まれているのは、メンバーの中で本屋巡りを好きな方がいます。もしやる事がない人は本屋へ行き、聾者が載っているような本を見つける事ができます。グループ内ではメールで、聾者が載っている本がある事など情報を流しており、私もいろいろ刺激になる事もあり、本を買うかどうかは個人の判断で自由ですが、買っている人もいます。本や資料を見るコツは最後の参考文献を見る事です。いろいろな参考文献を元にして調べると意外なつながりが見えてくることが多いので面白いと思います。また聾者だけでなく、盲人関係でも意外に聾者の事が含まれている事があります。他にも精神障害者など聾者だけに注目するのではなく、他の分野にも目を向けると一部ですが、聾者の事が書かれている場合もあります。このような方法でやっています。

(司会) 視野を広げたり調べたり、本を探して見つけたりするのですね。分かりました。みなさんは資料を集めていてたくさんあると思いますが、家は大丈夫ですか？奥さんから怒られたりしませんか？集めた資料の保存または処分方法はどのようにしますか？

(北海道) 資料保存のためにコピーをしています。それが積み重なっているの、いざまとめようとした時には必要な資料を探し出すのに1日かかってしまいます。このように整理が出来ていない状況で大変です。忙しいですからね…。今度時間ができたらイチからきれいに整理したいと思いがら今に至っています。夢ですね…。整理し終わるためには時間がかかるでしょうね。資料の多さを見ると、1年や2年でできるかどうか分からない状況で困ってます。

(司会) そんなにたくさんありますか。宝物ですか？興味のない人から見るとゴミの山ですかね？(笑)

(岩手) 私の場合、資料の保管場所は自宅です。本当は保管場所が欲しいです。ろう学校で保管場所を作っただけのように交渉(相談)するといいな？と思っています。今一番問題なのは先々週に盛岡ろう学校の3代目校長がお亡くなりになりました。その校長先生は資料をとでもたくさん持っていると聞いています。亡くなった後、この資料をどうすればいいのか？考えています。ろう学校と交渉するのか？など相談中です。

(司会) 校長先生の名字は？

(岩手) 大石先生です。

(司会) 分かりました。ありがとうございます。

(信濃) 私の家は農家なので家は広いですが整理状況は悪いです。本当は本棚を作り、上の段からア行…、カ行…、のようにきれいに整理したいと思っています。が、時間がなく忙しいので、それが理想です。

(司会) 家が広いということでしたら場所を提供していただき、歴史学会の資料館を建てていただくのはどうですか？(笑) 次、どうぞ。

(富山) 自分の家の部屋は狭くなってきました。今後研究グループのメンバーが増えているので資料を1枚ずつコピーして、DVDに保存しコンパクトにまとめたいと思っています。まだ話し合いはしていませんが、今後考えたいと思います。

(司会) 新しいですね。ありがとうございます。

(愛知) パソコンの下に足が入らないほど資料を積んであったのですが、妻から怒られ、会社から段ボールを持ってくるように言われ妻に任せると、何か必要な物がある時はその段ボールから取り出

せばいいように整理し協力してくれました。今は2箱、3箱ほど、しまっておりま



(司会) 2箱でも多くなりますか…。分かりました。次、どうぞ。

(近畿) 私の家は京都で家も狭く部屋も狭いですが、資料が多いため妻に怒られています。掃除の邪魔だから要らないものは捨てて！といわれケンカしています。本当ですよ。今はケンカもおさまり、落ち着いたのか？黙って我慢しているのか？分かりませんが…。他に近畿グループとしては古本や聾者が載っている本を見つけた場合、グループとして購入し、その資料部分は会員みんなにコピーをして配り、原本はほとんど研修センターへ寄付する形で今は進めています。

(司会) 悩みは資料を選ぶか？奥さんを選ぶか？ですか。冗談ですが…(笑)でも大事な資料は京都全国手話研修センターへ寄付するとはすばらしいですね。いいと思います。これに関して中根さん報告はまだですか？先程話していたことは？

(北海道) 今年の7月末に聾史学会運営委員会の会議が京都手話研修センターで行われました。会議が終わった後、研修センターの隣にある建物(そこは以前ホテルの職員の宿舍専用でした。)そこへみんなで行き、その中で一部修理はしてありますが、大きな箱があり、中にはそのまま、例えば前編集長の故中西先生の奥様から家にあるたくさん資料を処分したいという事だったので、聾史学会で責任を持って保管する事になりましたが、学会では保管出来ないため、研修センターに相談したところ、保管していただける事になりました。ただ、展示はできません。大きな箱ごとそのまま入れてあります。また、故広貞先生の奥様から

いただいた多くの資料入りの箱を、かなりの量積み重ねてある状況です。そこを見学しました。まだ整理中ですが、今後、日本ろうあ者問題を研究をしたい人、大学の先生、学生の卒業論文など、何か調べたい人のために研修センターの横に日本ろう史資料館、名称はどうか分かりませんが、歴史を調べることができるような資料館になって行きたいと思っています。今の学会運営委員だけが、資料を提供するようにしています。購入することはできません。お金がないので…。処分したい資料があれば是非、提供するようにして欲しい。これから新しい方針を作りますが、今はまだ決まっています。みなさんもこの考え方を広めて協力していただきたいと思っています。

(司会) 資料室は私も見ました。例えば、神戸の和田氏の資料や、大阪、和歌山の遠藤氏の資料、亡くなった方の資料を処分するのはもったいないので保管しています。みなさんも自宅にある資料で寄付できるものがあれば、この日本聾史学会へ連絡していただければありがたいと思います。最後に1つだけグループで活動するにあたりかなりの出費があると思いますが、その活動資金について悩みなどはどうでしょうか？

(北海道) 札幌聾史研究会の場合は、会費制がありません。運営費は本を出版して得た利益が活動費となります。調査費や資料購入などはほとんどこの活動費から出しています。

(岩手) 私のグループは、会費を1000円ずつ集めています。もし必要なことがあればできる範囲で自己負担で対応しています。

(信濃) 札幌と同じで私のグループも本の出版で得た利益で運営しています。

(富山) 岩手と同じで会費は1人1000円ずつ集めており、更に2000円は日本ろう史学会の会費として集め、合わせて3000円を集めています。

(愛知) 私の倶楽部は会費制度はありません。第3回の日本聾史学会の残金が倶楽部の設立資金になっているので、困る事はなく順調に進んでいます。

(近畿) 近畿の場合は1年に5000円です。他に新聞発送料として1年間と限定ではなく発送数5回で6000円です。高いと思いますが、先程話したようにできるだけグループで本を買い、それを

寄付したり資料はコピーして会員みんなに配ります。コピーするものはすべてグループが責任持って購入するように運営しています。つまり新聞作成や本の購入を基本としているため、会費は1年に5000円ずつ集めています。

(司会) 各グループとも本当に地道にコツコツとお金を使い、奥さんには怒られ、悩みながら大事な仕事をされています。将来、社会の役に立つといいですか、聾者の歴史をまとめて立ち上げる仕事です。今までにないわけですから、その立派な仕事をパイオニアとしてやっているのだから、評価をあげたいと思います。お金の苦勞など今はいろいろあると思いますが、いつかは評価が出るだろうと思います。将来を楽しみにして頑張ってくださいと思います。今、報告が出ましたが、自分の地元でも倶楽部を作りたい方はいますか？滋賀はどうですか？西川氏の研究会などはどうですか？

(滋賀) 滋賀のツジです。私の滋賀には口話の普及で有名な初代校長の西川氏がいます。少しですが、昨年調べました。ちょうど昨年9月に情報施設(聴言センター)の中の法人後援会が主催で毎年1回開かれているイベントで、手話ふれあいフェスティバルがあります。会場は持ち回りですが、たまたま去年は滋賀県立ろう学校を借りて行う話があり、西川校長などの資料がセンターに保管してるならやってみてはどうか？(実は私が歴史好きなことは有名？有名かどうか分かりませんが…) 個人的に聞かれたのですが、私団体に所属してないため、1人では出来ないのだから話を持ってきた方の団体(その方はろう協の機関紙部のメンバー)に加わるなら構わないと話し、喜んで協力しました。初め、資料館は旧図書館ではなく、別の場所に移動しており、その建物は、昔の??寮というろうあ児施設で人数が減少したため閉鎖になったそうです。何も使わないのはもったいないため、物を置いているようです。その資料館に入り、資料がとても多いので驚きました。その中には日本の書物だけでなく、アメリカで購入した英文記載の書物まであり、余談ですが、本来の目的からはずれ、どんなものか試しにアメリカのものを見たりして時間を忘れて夢中になった事もありました。とにかく、必要な資料をいくつかあげ、写真も保存や記録し、きっかけを作りました。

個人的に歴史を調べ、記録し、法人後援会の機関紙の発行が年4回あります。その4回に情報を載せ、それだけではなく、今後は出生地、今は、家は取り壊されてありませんが、記念碑が残っています。裕福な近江商人で有名のため、記念碑はありますので、見学できるので案内するなど個人的にやりました。他に西川氏だけでなく、西川氏の先祖には意外にも北海道の小樽に関わりのある方がいます。ろうあ者の先生には関係ありませんが、お正月のおせち料理に入れるものに関係があります。例えばニシンを北海道から船で大量に運ぶ為の保存方法を発見した人で、京都料理には有名で広まっています。そういう人が関わっている事が発見できたことは、とても嬉しいです。

(北海道) 研究グループを設立するようにお願いします。頑張って3~4人と増やして行って下さい。

(司会) 他のところで研究グループを立ち上げたいところはありませんか？宮城はどうですか？ありませんか？他はどうですか？東京は？四国は？研究しているところはありませんか？今日は研究グループがあることを目標にしてみなさんもご自分の地域で研究活動を始めて欲しいし、作って欲しいと思います。今日は時間がありませんので、これくらいでパネルディスカッションは終わります。ありがとうございました。

(拍手) ~以上~